

此中一或方と澤多之且日米同厚の
近格一思し美之之わ、度、干一可成
と確信出たれ、さ、日米同厚の右
未建見ると心おわき、一、さ、ま、し
前送方、自種、多難、と、な、れ、ま、る、邦
家以上、若、心、方、切、り、た、れ、な
後送、送、り、し、律、也、と、い、ま、る、と、り、た
と、な、る、也

八月十日
山本五十五

新留 鏡山 様

三肉東字院女子学校
明治村 福集員
海軍工廠 定三

川崎 岩氏

命託

拝啓

七月十日附御手紙難有拜見致候

御帰朝以来千辛萬苦の末漸く

會社設立御飯墨の事ハともにか具(く)ニも

御本懐と可申 此間御母堂様の

御逝去等 今回の御滞京ハ誠ニ感慨

深き御事なりし □□と拝察致居候

然る處御飯墨後も種々故障妨

害等あり多難の御心情御察申

貴地の模様ハ其内

浜中武官も帰・・・且日米関係の

近情ニ照し益々□□の展開可致

と確信致居候 小生も日米関係の為

夫連(それ)見ろといふわけニ御座候

前途尚ほ種々多難と存居候へ共為邦

家此上共御尽力切に祈上居候

臨終遙ニ御健康と御發展とを祈

上候 敬具

八月十八日 山本五十六

一九三九
八月
14

都留 競様



連合艦隊司令長官

兵の陣頭に立とうとする司令長官。アメリカの国力や国民の気性をよく知りぬいていた。たとえ、やむなく戦争となっても、早期講和をのぞんでいた。

「此の^{おおなみ}大濤を乗り越え切りぬけて」

(昭和十六年五月末、渡部重徳宛 軍艦長門からの書簡より)

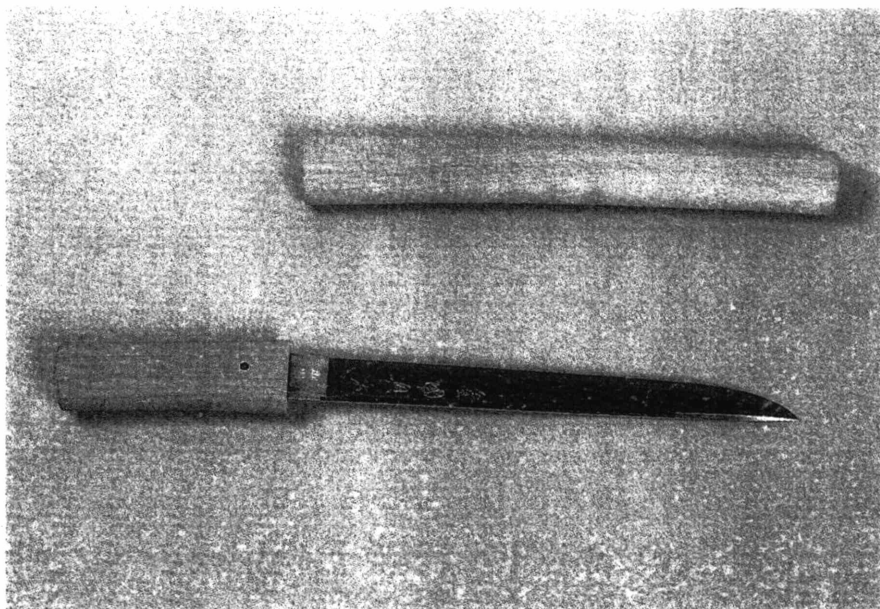
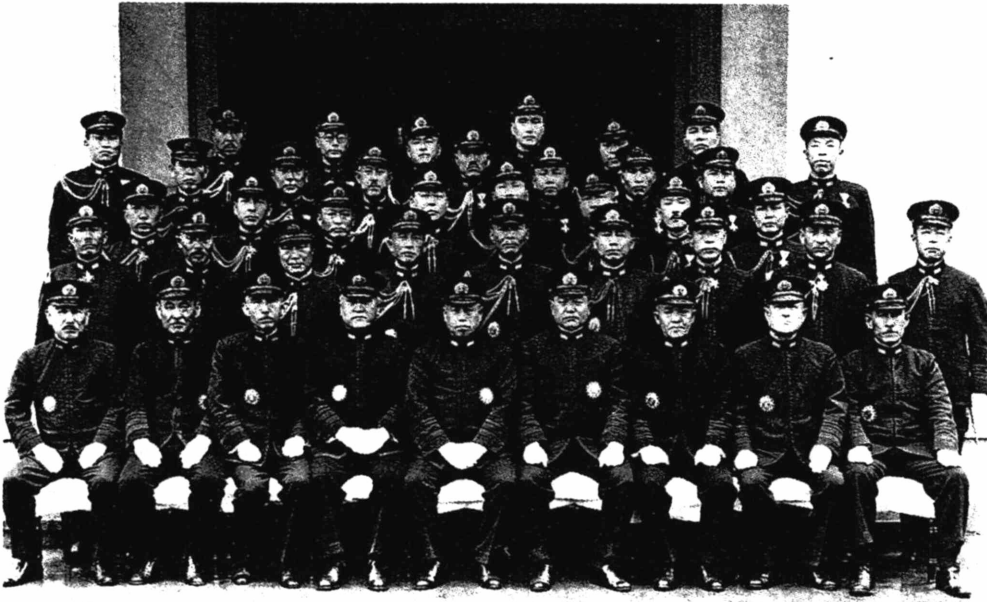
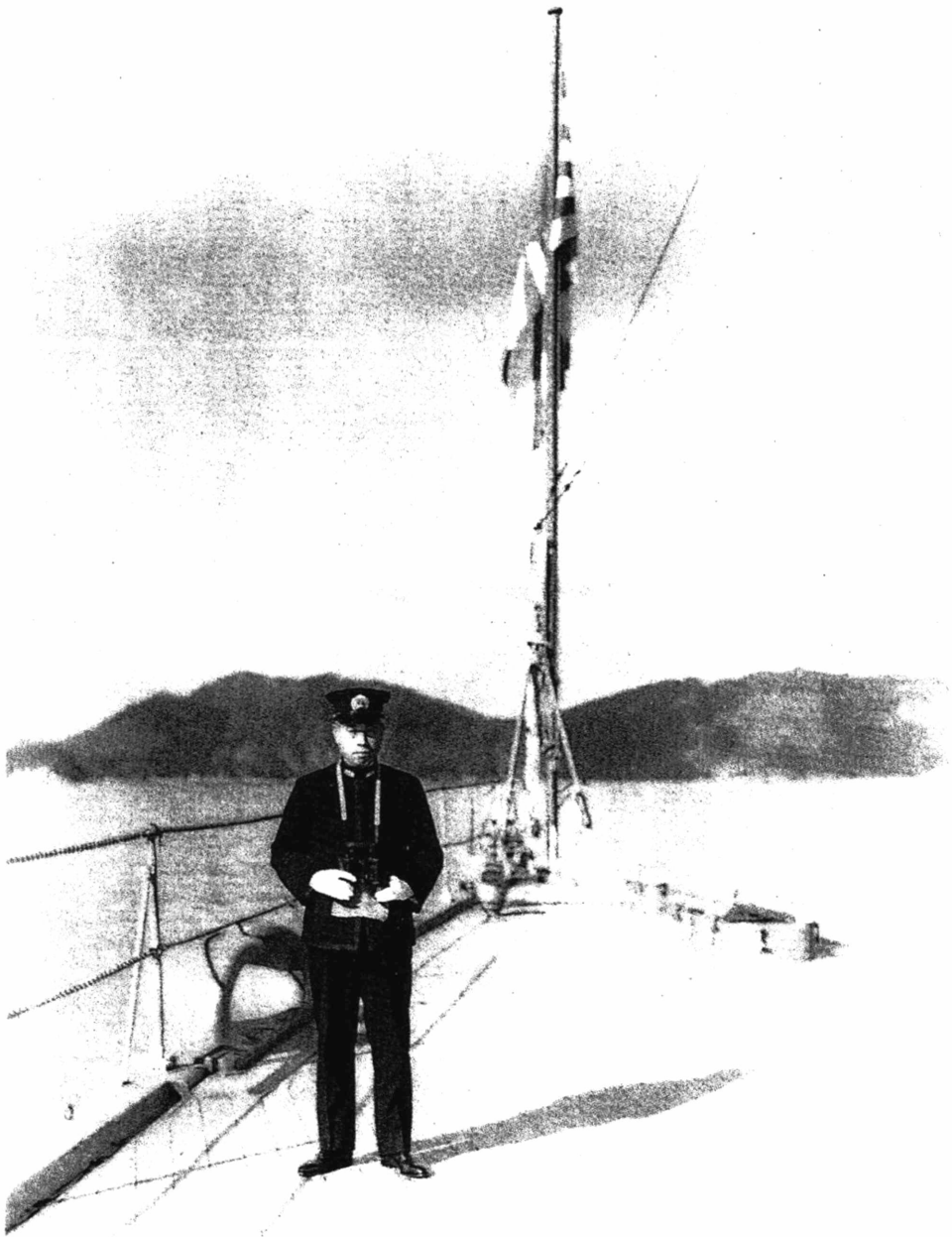
軍艦長門の連合艦隊司令長官

連合艦隊の旗艦であった長門の甲板上に立つ。長門は世界で初めて四〇センチ主砲を搭載した戦艦であった。同型艦「陸奥」とともに「大

和」「武蔵」が登場するまで『世界最大の戦艦』だった。艦尾に長官室があり、甲板上にでて、双眼鏡をもつ勇姿を撮影したものである。

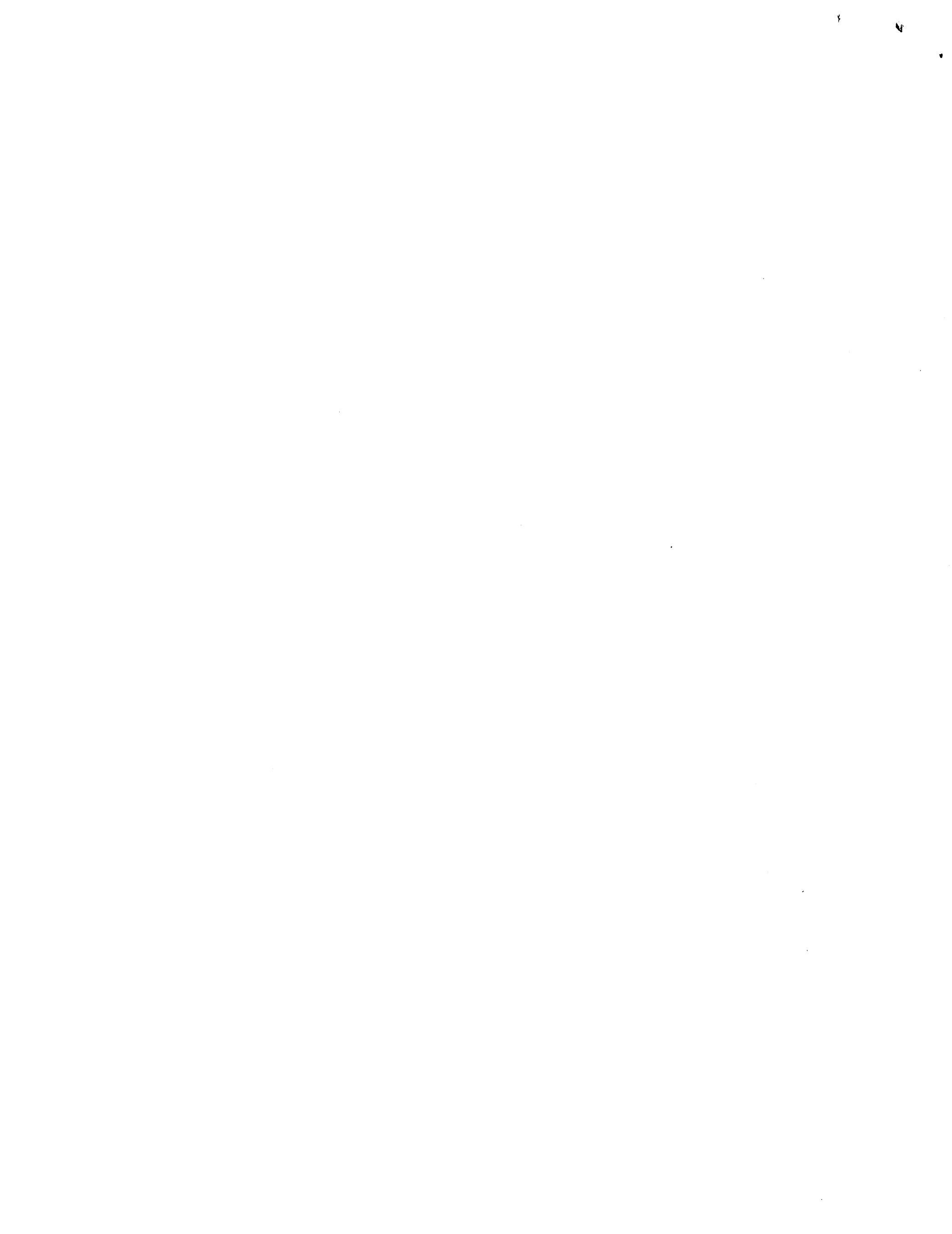
連合艦隊司令部

昭和十六年十一月二十三日、岩国海軍航空隊に集合した連合艦隊の主要メンバー



短刀

開戦の際、連合艦隊司令長官に恩賜金が下付された。それで短刀をつくり、参謀たちに配った。刀身に自筆の決意が彫られている。短刀の長さは海軍士官の短剣に仕込めるよう作られた。



世界をめぐる

「石油視察のためメキシコ市に行く」

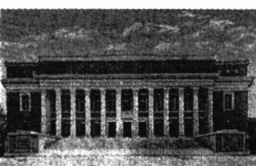
アメリカ合衆国駐在員

大正八年（一九一九）米國駐在員として五月渡米、ボストンに下宿をとった。そこからハーバード大学の英語夏期講習に参加。夜は家庭教師を雇い英会話学習。さらに九月の新学期からハーバード大学に入学し、英語習得に励んだ。同年十二月海軍中佐に昇進した。翌年五月、ワシントンの日本大使館勤務となつた。六月、国際通信会議予備会議委員の随員を任命され、幣原喜重郎大使を助けて資料の整理と準備に活躍した。駐在員としての重要課題の一つが、アメリカの石油事業の調査研究であった。駐在任期も終わる大正十年四月、自費でメキシコの油田調査に出かけた。



二度のアメリカ生活、九か月に及ぶ欧米視察で、国際的視野を身につけた。科学・技術の急速な発達を目のあたりにして、石油と飛行機の重要性に開眼した。

（大正十年四月二十一日付 高野季八宛絵はがきより）



アメリカ・ハーバード大図書館
大正8年12月1日



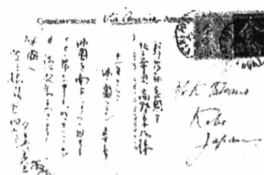
清国・上海
明治41年12月26日



アメリカ・サンフランシスコ
明治42年5月4日



メキシコ
大正10年4月21日



フランス・リヨン
大正12年11月23日



カナダ・ヴァンクーヴァー
明治42年5月25日



イギリス・ロンドン
昭和5年4月24日



シンガポール
明治43年6月24日



アメリカ・ロサシゼルス
明治42年4月24日



アメリカ・シアトル
明治42年4月11日



ハンガリー・ブダペスト
大正13年12月23日

世界の国々をめぐる

絵はがきは、立ち寄った所から恩師渡部與や兄季八、甥の長男亨らに送った。明治四十二年（一九〇九）海軍兵学校卒業生の遠洋航海指導者として、巡洋艦「阿蘇」で北米を。翌年には練習艦「宗谷」で東南アジア、オーストラリアなどをめぐった。

大正十二年七月から翌年三月までの九か月間、ワシントン軍縮条約後の欧米諸国の実態を、井出謙治海軍大将とともに視察した。その間も、

アメリカ合衆国駐在の際は、ボストンのハーバード大学で英語を学

その後も絵葉書を書き送った。

